

うえる かむ

Welcome!

vol.36

農業委員会だより
発行：常総市農業委員会
TEL：0297-23-9013
令和7年1月



謹

賀

新

年

農業でいざ勝負！新規就農

おいしいいちごには理由がある



いちご農家 渡辺さん

就農のきっかけを教えてください
●もともとは非農家出身ですが、東日本大震災を経験し、当時手に入る食料が限られた状況の中で、改めて食の大切さを痛感しました。同時に、食の安全性にも目を向け、食に深く関わる農業に関心を持つようになりました。初めのうちは会社員の傍ら、休日に貸し農園を利用して自分で野菜を育てることからスタートしました。次第に、自然を相手にする農業の難しさや奥深さ、作物の強さに魅了され、また自分の手で何かを生み出したいという憧れもあり、農業を生業にしていこうと決心しました。



農業のやりがいを教えてください

●土作りから始まり、丈夫な苗を育て、日々手入れを重ね、時間をかけて作物を育てていく成長過程を間近で見られることにやりがいを感じています。「農業は毎年一年生」これは農業の世界でよく言われる言葉で、同じ天候は二度となく、気候の変化や土の条件などによって毎年やり方を変えていく必要があります。農業は自分の思い描いたとおりにいかないことも多いですが、試行錯誤を繰り返しながら経験を積んでいき、柔軟に対応していかなければならないところに難しさと思えます。また、消費者と直接対面する機会もあり、良いものを作って喜んでもらえることも嬉しいことです。その反面、作物は消費者が直接口にするものなので、安全性と品質が求められ、作る側としての責任も強く感じます。



こだわりの栽培方法を教えてください

●自家製堆肥を使った資源循環型農業への取り組みを実践しています。化学肥料や化学農薬の使用を抑えて、自然の流れに沿って資源を再利用し、環境への負荷を軽減する農業を心掛けています。SDGs（持続可能な開発目標）が現代のキーワードになっていますが、当園では、キノコの廃菌床を使った堆肥作りに挑戦しています。キノコ生産者さんの協力を得て栽培収穫後に大量に排出される廃菌床を再利用し、もみ殻や米ぬかなどの有機物と微生物資材を何度も混ぜ合わせて発酵させていきます。半年以上かけて出来た堆肥を畑にすき込むことで土壌環境が良くなり、作物が健康に育ちやすい状態にしていきます。今後も環境に配慮した優しい農業の取り組みを目指していきたいです。



地域計画策定における座談会を行いました!

座談会では認定農業者等が中心となり、農業委員の意見を聞きながら話し合い、地域農業の将来像を見据えた目標地図を作成しました。



地域計画とは、高齢化や担い手不足が進む中、10年後、誰がどのように農地を使って農業を進めていくのかを地域の話し合いに基づいてまとめる計画です。

スマート農業特集

7月に行われた航空防除では、ドローンが活用されました。

ドローンによる散布では薬剤をピンポイントで病害虫に散布でき、今までの散布方法よりも周辺への飛散を軽減することができます。



農地あっせん情報

以下の農地について、買い手・借り手を探しています。

所 在	件数(筆)	所 在	件数(筆)
水海道橋本町	1 件	大生郷町	8 件
水海道森下町	1 件	大輪町	1 件
小山戸町	1 件	坂手町	12 件
相野谷町	3 件	大塚戸町	1 件
平町	3 件	本石下	1 件
十花町	1 件	蔵持	3 件
上蛇町	1 件	蔵持新田	1 件
豊岡町	4 件	杉山	2 件
伊左衛門新田町	1 件	馬場	2 件
大生郷新田町	2 件	栗山新田	2 件

老後に備えて**農業者年金**に加入しませんか

- 1 農業者なら広く加入できる「終身年金」
- 2 若年層には手厚い保険料補助
- 3 税制面での大きな優遇措置

詳しくは

農業者年金

検索



編集後記

36号より農委だより常総は、新たに「うえるかむ」へリニューアルしました。

「うえるかむ」には、農業の基本である「植える」と常総市に「ようこそ」Welcome という思いが込められています。生まれ変わった農委だよりとともに、編集委員一同より良い記事をお届けできるよう精進してまいります。



編集委員紹介

(委員長) 内海 浩之

(委員) 増田 清亮
浅野 清亮
石塚 勝
長塚 和実
倉持 利治
井沢 治

堀越 健太郎
宅間 修一
瀬崎 修
倉田 光雄
石嶋 照夫

お問い合わせは農業委員会事務局(0297-23-9013) まで